

本堂

本堂（西来堂）は西芳寺の伽藍の中にある建物であり、かつて庭園の中に建てられていたが応仁の乱によって焼けてしまった礼拝堂を再建したものである。西来堂の本尊は阿弥陀（無限の光の仏陀）である。阿弥陀は、自らを信じる者をすべて救済し、死後に極楽浄土へと連れて行くと言われている。寺の住職の夢の中に阿弥陀像が現れた。目を覚ました住職は、小さな祭壇の中にその像があるのを見つけた、と言われている。その像が今日、本堂の内陣の中におさめられている。禅寺では、観音が本尊として祀られる場合が多い。西芳寺はその歴史の中で、他の二つの宗派、法相宗と浄土宗の寺院でもあった。阿弥陀像はこの浄土宗の影響が反映されていると考えられる。

西来堂はその素晴らしい襖絵でも有名である。寺の来訪者は、本堂へお参りし、阿弥陀如来への祈りを捧げることができる。